

新潟水俣病被害者の主な症状とは？

食物連鎖

手足のしびれ

他人から理解されにくい被害

ポイント④ 主な症状

▼阿賀野川の岸边で、自分の手をじっと見つめる被害者



注目① 食物連鎖を通じて広がった被害

工場から阿賀野川に流れ出た有機水銀は、**食物連鎖**を通じて川魚にたまり、その川魚を毎日のようにたくさん食べ続けていた人が新潟水俣病になってしまいました。



Q パネル08をチェック！

阿賀野川が流れる地域では、川魚を毎日のようにたくさん食べ続けた人の体内に、**有機水銀**がたまっていきました。

毎日のように食べる

人間(被害者)

昔の食事(川魚が中心)

注目② 体内に入った有機水銀は…

人の体内に入った有機水銀は、まず腸から吸収され体内にたまり、やがてそれが脳にも入ります。

脳に入った有機水銀は、運動や感覚に関係する神経細胞をこわして、さまざまな症状を、人体に引き起こしました。

● 有機水銀
→ 移動
→ 吸収

注目③ 他人からは理解されにくい被害

新潟水俣病の被害者が苦しむ主な症状は、見た目からは健康な人とあまり見分けが付きません。

そのため、症状のつらさなどを周囲の人たちから、なかなか理解してもらえないとなやむ被害者も多くいます。



症状の苦しみをなかなか理解してもらえない被害者の話

私は平成時代の中頃に、被害者として声を上げました。今のところ「ニセ患者」のような差別を、私がくらす地域の中では受けていません。ただ、仲の良いご近所さんに、自分が苦しむ水俣病の症状を打ち明けたところ、「あなたは水俣病には見えないから、その症状はたんなる気のせいでは？」などと悪気なく言われ、なかなか理解してもらえず悲しくなりました。

鹿瀬工場

有機水銀をふくんだ排水

食物連鎖を通じて

体の表面やエラから

有機水銀はまず、水中のプランクトンにとりこまれ、それを水生昆虫が食べ、さらにそれを川魚が食べる食物連鎖を通じて、濃度が何十万倍も高くなって、川魚の中にとまっていました。

プランクトンなどの微生物

水生昆虫

阿賀野川

ウグイ・ニゴイなどの川魚

食物連鎖などを通じて有機水銀が何十万倍もの濃度でたまる